

シリーズ—研究者の横顔 (Vol.01) —

生命科学グループ

後藤聡先生

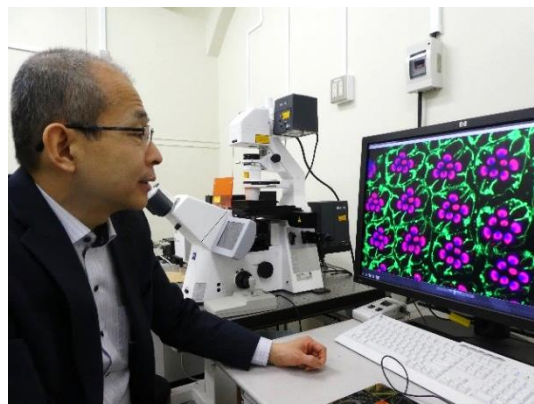
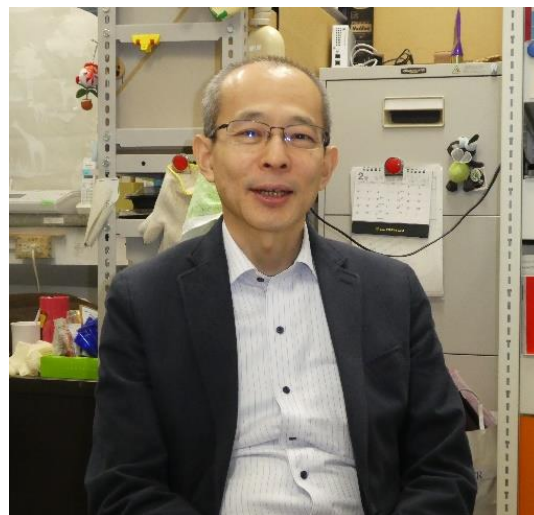
■先生のご担当研究は？

ひとつめは、ストレスと免疫系を介した神経系の影響についての研究です。

自分の身体が傷ついたりしたときに、免疫系がその傷を修復することを「炎症」というのですが、ストレスによっても炎症が起きると言われています。その炎症が神経系に悪い影響を与え、さらにメンタルにも影響を与えるということが分かってきました。このようなストレス・免疫・神経の連関を、シヨウジョウバエを用いて研究しています。

ふたつめは、自閉スペクトラム症児の腸内環境についての研究です。“腸内環境が健康やメンタル面に影響を与えている”ということがよく言われているのですが、自閉スペクトラム症児の腸内を見てみると、すごく腸内がただれていることが知られています。そこで、自閉スペクトラム症と腸内環境には何か関連があるのではないかと思います、研究をすすめています。

この研究の特徴は、自閉スペクトラム症児と、そのきょうだいや保護者を比較するという点です。遺伝的背景や食生活が似通った方たちを比較することで、自閉スペクトラム症に特異的な点を明らかにしようとしています。



「シヨウジョウバエの目って、個眼がたくさん集まった複眼になっていて、それでもものを見ているんです。こういう風に、結晶みたいな感じで綺麗な構造をしているんですよ。」

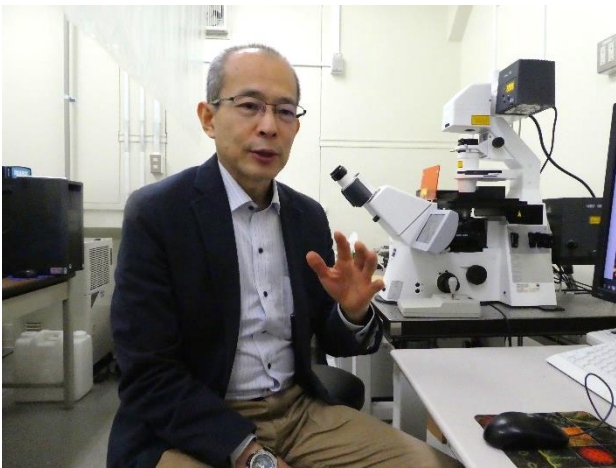
■先生のストレス解消法は？

私はストレスがかかると、いろいろ病気になっちゃうんです。こどもの頃もそうですが、大人になっても結構、免疫系の病気にかかることが多いです。そういった実体験の中でも、

ストレスと免疫は関係あるな、と感じます。

私にとって、ストレス解消に一番いいのは寝ることです。寝るとずいぶんよくなります。「ストレス解消法は？」と聞かれると、「寝る」と答えてしまいます(笑)。一般的ですけど、でもそれが一番効きますね。

■人の心には分子的な基盤がある



心理学ではいろいろな人と対面し、どのように接したらいいのかを考えるのかもしれませんが、しかし、そのとき実際に相手の身体の中でどんなことが起きているのかを知ることができたら、相手への理解が深まるし、もっとその人に適した対応ができるかもしれない。

お互いの知識を持つことで、文系の人にも役に立つだろうし、理系の人には「分子を調べることが、実際に人や病気に関係してくるんだ」と実感が湧きます。

文系は人の心を扱います。経済学部もそうだし、法学部もそうだし、文学部は特にそう。だけど、人の心には分子的な基盤があるんです。それを理解しながら研究をすすめていけると、文系も理系もお互いにとってプラスになるんじゃないでしょうか。そういったところも、この立教のブランドのひとつになってくると思います。

2月27日に、池袋キャンパスの後藤先生の研究室および実験室にお邪魔して、取材に協力していただきました。生物学・生命科学の知識のない私たちにも、わかりやすい言葉で説明してくださり、先生の研究領域にたいへん興味が湧きました。今後の研究のご発展をお祈りしています。(取材担当：教育研究コーディネーター 豊田真季)